

県立一志病院の必要性について —総合診療の教育・研究の観点から—

竹村 洋典

教授 三重大学大学院医学系研究科家庭医療学

医学部附属病院総合診療科

医学部 津地域医療学講座

医学部 亀山地域医療学講座

医学部 伊賀地域医療学講座

医学部 地域包括ケア・老年医学講座

大学院医学系研究科地域医療学講座

大学院医学部教務委員長

三重大学医学部地域医療学専攻・フェロー

アメリカ家庭医療学系認定家庭医療専門医・フェロー

日本プライマリ・ケア連合学会認定

プライマリ・ケア認定医・指導医・理事

日本プライマリ・ケア連合学会 編集委員長

Asia Pacific Family Medicine 編集委員長

Journal of Medical Case Reports 編集委員長

編集委員



総合診療とは

- 用語:世界的には「家庭医療」、日本では「総合診療」
- 総合診療＝地域の住民が必要とするケア(医療、保健、介護など)
- 臓器、年齢、性別からの適宜ではなく、**住民側からの定義**
- 様々な出来る**包括性**、多職種と連携、**患者中心**、**近くにいる近接性**、長期ケアする**継続性**



総合診療の日本での立ち位置

- 2013年、「専門医の在り方に関する検討会」(厚労省)で、これまでの18専門医(内科、外科、...)に加えて、**総合診療専門医**を19番目の専門医として公認
- 総合診療は**地域偏在**、**医療費増加の解決策**
- **在宅医療を効率的に実施**、**地域包括ケア**の重要なプレイヤーになりうる
- **多職種連携**するための教育・研修の中心的存在
- **地域医療構想**の前提となる**在宅医療**や**回復期・慢性期病床**でのケアを効果的に実施



総合診療の日本での立ち位置

- 現在、全国医学生が将来なりたい専門医の**2番目**が「総合診療専門医」に
- 総合診療系学会の**日本プライマリ・ケア連合学会**(竹村は理事)の**医師会員数:1万人超**
- **日本医師会**と協働で**専門医制度**を構築



三重大家庭医療・総合診療の立ち位置

- 全国の家庭医療・総合診療のフィールドでトピック2に入る(「西の三重大、東の筑波大・・・」)
- 特に医学部教育と臨床研究では他を引き離してナンバードワン⇒学会が最重視する医育機関
- 総合診療医育成でも大きな成果(今年度は6人がプログラムに。三重大学で1番多い)
- 全国大学そして海外から教員・指導医が三重大学に集まるマグネット医育機関
- 筑波大、宮崎大、福岡大、金沢医大など全国に教員を発信

三重大学

昨今の研修医や医師の獲得方法

- 若い医師は、給与の高低よりもより良い教育・研修で研修場所を決定
- 特に有能な総合診療医は、その傾向が強い(逆に高い給与で集まった研修医は・・・)
- 有能の総合診療医は将来、優れた指導医に
- 良い教育・研修を提供することで、県外からも医師をたくさん集められる
- 困難な遠隔地への医師の確保には、効果的
- 医学生の時から総合診療医への動機づけ

三重大学

優れた総合診療指導医の集め方

- 指導医の場合は
 - 研修医のみならず、学生も教育したい
 - 学生教育・研修医指導ができる能力を身に付けたい
 - 総合診療の研究もしてみたい
 - しかし、地域で診療活動もしたい
- 地域の病院に大学教員ポジションがあれば・・・

三重大学

三重大学総合診療の教育フィールド

- 三重大学
 - 大学院医学系研究科臨床医学講座 家庭医療学分野
 - 医学部附属病院総合診療科
- 地域の市町の寄附による地域医療学講座
 - 亀山地域医療学講座(亀山市)
 - 伊賀地域医療学講座(名張市・伊賀市)
 - 津地域医療学講座(津市)
 - 地域包括ケア・老年医学講座(南伊勢町)
- 三重県地域医療再生事業(県の1億円弱事業)
 - カンファレンスルーム・宿泊施設・教育物品・その他



三重大学

三重大学地域家庭医療学ネットワーク

三重大学附属臨床研修センター
総合診療科

北山村マタニティセンター
(三重大学附属地域医療学講座)

三重県立 志紀病院
(三重大学附属地域医療学講座)

三重大学地域家庭医療学ネットワーク

志紀市立病院

志紀市立病院
(中大附属志紀二病棟)

石浜総合診療科

北ファミリークリニック

三重大学の総合診療の教育・研修

- 医学生 (一志病院は常時3名)
 - 1-2年: 初期臨床経験実習 (必修) 金曜午後年間
 - 4-5年生: 4週間の総合診療臨床実習 (必修)
- 看護学生など多職種学生
 - (一志病院は研修の場)
- 家庭医療協働実習 (三重大学の正規カリキュラム)
- IDT-MIEなど (全県の医療系大学による教育)
- 多職種医療従事者のチーム医療研修
 - 事例検討会 (一志病院は研修の場)

三重大学 MIUE UNIVERSITY

三重大学の総合診療の教育・研修

- 初期研修医 (一志病院は常時1名)
- 総合診療・家庭医療後期研修医 (専攻生)
 - (一志病院は常時数名)
- 大学院生 (修士課程学生・博士課程学生)
 - (一志病院は研究フェイワード。津市と共同して)
- プライマリ・ケア ナース (一志病院が中心)
 - 地域で活躍する看護師不足にも対応

三重大学 MIUE UNIVERSITY

三重県地域医療支援センター 総合診療専門研修プログラム

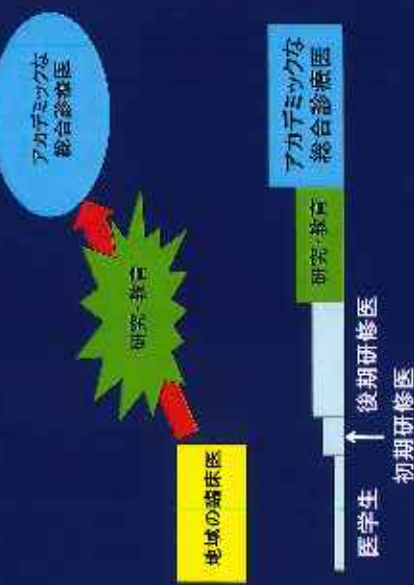
- 総合診療専門研修I(診療所・中小病院)
 - 研修医を受け入れる施設 **少ない**
- 総合診療専門研修II(病院総合診療)
 - 研修医を受け入れる施設は多い
- 内科(内科専門研修の施設)
 - 研修医を受け入れる施設は多い
- 小児科、救急、その他
- プログラムの定員は **研修** で決まる



従来の総合診療医のキャリアパス



総合診療医倍増のキャリアパス(「未来医療」)



県立一志病院の教育・研究関連の人員

- 1 病院長
- 2 寄附講座教員
- 3 寄附講座教員
- 4 寄附講座教員
- 5 後期研修医(専攻医)
- 6 後期研修医(専攻医)
- 7 後期研修医(専攻医)
- 8 初期研修医
- 9 常勤医師
- 10 常勤医師



県立一志病院で育った総合診療医たち (初期研修医除く)



●: 総合診療医1人

県立一志病院での総合診療の教育・研修

- ・ 総合診療の学生教育・研修医・専攻医研修
- ・ 地域で活躍できる総合診療医の養成
⇒ 地域格差の適正化、診療科偏在の解消
- ・ 在宅医療の卒前教育・卒後研修
- ・ 地域包括ケアのモデル構築とその教育
- ・ チーム医療の教育とその推進
- ・ 認知症対策を総合的に教育し推進
- ・ 地域の救急医療の教育とその推進

県立一志病院の研修医の研修 研修医の研修

研修 研修医	研修 研修医	研修 研修医
41 内科研修医	42 外科研修医	43 小児科研修医
44 産科研修医	45 皮膚科研修医	46 泌尿科研修医
47 精神科研修医	48 放射線科研修医	49 救急科研修医
50 在宅医療研修医	51 地域包括ケア研修医	52 認知症対策研修医
53 救急科研修医	54 救急科研修医	55 救急科研修医
56 救急科研修医	57 救急科研修医	58 救急科研修医
59 救急科研修医	60 救急科研修医	61 救急科研修医
62 救急科研修医	63 救急科研修医	64 救急科研修医
65 救急科研修医	66 救急科研修医	67 救急科研修医
68 救急科研修医	69 救急科研修医	70 救急科研修医
71 救急科研修医	72 救急科研修医	73 救急科研修医
74 救急科研修医	75 救急科研修医	76 救急科研修医
77 救急科研修医	78 救急科研修医	79 救急科研修医
80 救急科研修医	81 救急科研修医	82 救急科研修医
83 救急科研修医	84 救急科研修医	85 救急科研修医
86 救急科研修医	87 救急科研修医	88 救急科研修医
89 救急科研修医	90 救急科研修医	91 救急科研修医
92 救急科研修医	93 救急科研修医	94 救急科研修医
95 救急科研修医	96 救急科研修医	97 救急科研修医
98 救急科研修医	99 救急科研修医	100 救急科研修医

表1-1 県立一志病院の診療科目別患者数

診療科目	11月	12月	12月累計
内科	1,118	1,118	2,236
外科	1,118	1,118	2,236
小児科	1,118	1,118	2,236
産婦人科	1,118	1,118	2,236
皮膚科	1,118	1,118	2,236
泌尿器科	1,118	1,118	2,236
眼科	1,118	1,118	2,236
耳鼻咽喉科	1,118	1,118	2,236
歯科	1,118	1,118	2,236
放射線科	1,118	1,118	2,236
検査科	1,118	1,118	2,236
理学療法科	1,118	1,118	2,236
作業療法科	1,118	1,118	2,236
看護科	1,118	1,118	2,236
薬剤科	1,118	1,118	2,236
診療科	1,118	1,118	2,236
合計	1,118	1,118	2,236

県立一志病院での総合診療の研究

- 研究テーマ
 - 適切な受療行動を決定する心理社会的要因
 - 地区住民の医療使用の現状
 - 効果的な糖尿病患者のフォロー頻度
 - 高齢者の認知症の治療方法
 - 斬新な個別栄養指導の効果検証
 - 緑茶飲用とアルルギ一疾患の関連
 - システムティックレビューを用いた研究
 - その他
- 美杉地区で研究のためのコホート構築中

表1-2 三重県立総合診療医の育成状況

養成機関	養成人数	養成期間	研修医	研修医数
総合診療科	100	100	100	100
内科	100	100	100	100
外科	100	100	100	100
小児科	100	100	100	100
産婦人科	100	100	100	100
皮膚科	100	100	100	100
泌尿器科	100	100	100	100
眼科	100	100	100	100
耳鼻咽喉科	100	100	100	100
歯科	100	100	100	100
放射線科	100	100	100	100
検査科	100	100	100	100
理学療法科	100	100	100	100
作業療法科	100	100	100	100
看護科	100	100	100	100
薬剤科	100	100	100	100
診療科	100	100	100	100
合計	100	100	100	100

三重県における総合診療医のポテンシャル

- 総合診療医・家庭医の育成状況が全国のトップレベル(高い総合診療医数/人口)
- 特に総合診療の教員・指導医育成が順調に進んでいる
- 三重県の医療機関に教育・研修や研究の付加価値をつけられ、さらに多くの教員・指導医⇒さらに多くの研修医・専攻医⇒地域に役立つ総合診療医を倍増可能

三重県における総合診療医のポテンシャル

- 地域医療構想の前提となる在宅医療、その基礎である地域包括ケアのさらなる充実が総合診療医によって可能
- 三重県の医療の地域格差の軽減（遠隔地の医師の確保を現実化）
- 三重県の医療費増大を抑制
- 三重県の認知症対策の推進
- 2018年に三重県にて日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の開催



未来の三重県の医療を私的に考える

- 遠隔地の医療もなくせない
- 逆に充実させて人口増加の前提に
- 遠隔地に多い自治体病院
- コストパフォーマンスの良い総合診療医
- 在宅医療、地域包括ケア、回復期病床を担うことができる
- 一志病院をプライマリケアの教育センターに



現状では、H28に県立一志病院は、次のような状態にならざるをえない

病院長
1
2
3
4
5
6
7
8
9 常勤医師(医師・自休)
10 常勤医師

救急患者受け入れ
 ほとんどなし
 病棟患者受け入れ
 なし
 伊勢地の診療所への
 医師派遣困難
 竹原診療所への
 医師派遣困難

